

『JavaScript』

宮杉 浩

昨年にリニューアルした図書館のホームページは図書館の風景や貴重書などの大きな画像がスライドショーのように表示される事が大きな特徴となっています。また各ページへジャンプするバナーも動的なものになっていて、以前のホームページより視覚的に訴えたデザインとなっています。このような動的、視覚的に訴えるWebサイトの構築に必要な不可欠なのが今回お話しするJavaScriptです。

JavaScriptとはSun Microsystems (Oracle) 社とNetscape Communications 社が開発したWebブラウザ向けのプログラミング言語の一つです。WebサイトはHTMLと呼ばれるプログラミング言語が根幹となっていますが、動的な指示を出す構文がありません。そこでJavaScriptなどのプログラミング言語を使用してページに動きを持たせるようにしているのです。その有用性から各ブラウザがスクリプトを実行するJavaScriptエンジンを実装したのですが、それぞれのブラウザに対応できるソースと対応できないソースがあったため、ヨーロッパのECMA (European Computer Manufacturer Association 「ヨーロッパ電子計算機工業会」) が標準化を図り、発行しました。これはECMAScriptと呼ばれ、JavaScriptとはこの標準規格を指すように現在にはなっています。標準化規格が定められた中でも、各メーカー独自のスクリプト言語があり、例としてMicrosoft社のJScript、Macromedia社のActionScriptがあります。

JavaScriptを利用すると画像を順番に表示させる、別ウインドウで設定した画面サイズのページを表示させる、バナーにスポットを当ててどこにカーソルが合っているかを視覚的にわかりやすくするなど多彩な動作が可能となるので、Webサイトのユーザビリティの向上を図ることができます。プログラミング言語の中では比較的シンプルな構造ですので、Webサイトの構築の勉強をする際にはHTMLソースの習得と並行しても、充分習得することができると思います。ただし、JavaScriptも日々進化していますので、ブラウザに組み込まれているエンジンのバージョンによってはうまく動作しないということもありますので、注意が必要です。JavaScriptを使用してWebサイトを公開する場合にはなるべく多くのユーザーが閲覧できるような機能の選択を視野に入れる必要があるのでしょ。

またサイトを閲覧するユーザー側も自身が利用しているブラウザのJavaScriptエンジンのバージョンによってうまくサイトが表示されない。もしくはJavaScriptが有効になっていないといった事もありますので、Webサイトを閲覧する際には、JavaScriptの存在を頭の片隅に置いておいていただければと思います。

JavaScript以外にもWebサイトを彩る様々なプログラミング言語があります。今後それらの言語もご紹介していきたいと思っています。

みやすぎ ひろし (係長補佐・管理運営課)